いしかわ里山塾（七尾班）　～大呑調査隊 2023！～

団体名●地域スポーツマネジメントゼミナール
代表者名●西村貴之（人間科学部スポーツ学科・教授）

はじめに（背景・目的・目標）

この取り組みは、「能登の里山里海」世界農業遺産活用実行委員会（事務局：石川県里山振興室）から本学地域連携センターへの委託事業「2023年度いしかわ里山塾」の一環として実施された。小学生と大学生がグループで地域内を散策し、地元住民との交流を通じて地域の自然、生活、歴史、文化について学ぶとともに、地元住民自身が地元の魅力を再発見、再確認するきっかけづくりを目指している。主要連携団体は大呑グリーンツーリズム推進協議会、大呑地域農泊推進協議会、七尾市立東湊小学校である。

活動内容

(1)大呑調査隊2023! ～行って、見て、感じて大呑の魅力を発見しよう～

日程：2023年11月9日（金）
場所：七尾市南大呑地域内
参加：東湊小学校6年生40名、教諭3名、本学学生19名、教員1名、地元協力者23名
内容：小学生と大学生が4つのチームに分かれ、南大呑地域内の大泊町、東浜町、熊淵町、山崎町の4町会のうち2町会ずつ調査した。調査では地元の方のお話を聞くほか、クリーンビーチや魚捌きなどの体験を交えた。小学生は調査報告会用の記録ノートを作成した。

調査隊の活動の様子①

調査隊の活動の様子②

(2)出前授業（事後学習会）

日程：2023年11月20日（月）
場所：七尾市立東湊小学校
参加：東湊小学校6年生40名、教諭3名、本学学生15名、教員1名、他関係者1名
内容：各班の小学生が事前に作成した調査結果（活動報告書）をスライドで発表した後に、これから自分達に何ができるか、どんなことが必要かについて、グループワークを通じて意見を出し合った。小学生からは「地元行事に積極的に参加する」、「地元の祭りに出て大きな声を出して盛り上げる」、「ゴミ拾いをする」、「海や景色を活用して映えスポットをつくる」といった意見があげられた。

出前授業①

出前授業②

成果、結果の考察

いしかわ里山塾（七尾班）としての活動は今年度で継続6年目となった。小学生と大学生との関係の中だけで活動を完結するのではなく、「地元住民の関心を高め、関わりを促進する」ことを2022年度から特に重視している。小学生、大学生が質問を投げかけていくと、地域の方々は嬉しそうに地域のことを語ってくれた。運営の中心学生達は幾度も事前訪問を行い、各町会からの協力をとりつけた。この準備プロセスも含めて、地元住民自身が地元の魅力を発掘し直す機会となっていた。

今後の課題、展望

取組みが徐々に浸透し、関わる地元住民が増えてきた。この活動に参加し、卒業した小学生、大学生も多くなっている。これらを「関係人口」とし、そのネットワークを保持しつつ、さらなる発展に向け、ゼミ活動の枠を超えて取組みのステップアップを図りたい。このことは、令和6年能登半島地震からの創造的復興という文脈においても、継続していかなければならない活動だと考えている。